

考える力を養える物作りの授業を目指して
～様々な材料に触れ、使い方や工夫して考える力が身につく～

日本に一時帰国した際にガーナで手に入らない工作手芸の材料をたくさん仕入れて来ます。しかし、ここ最近のガーナは首都ガーナでは、値段はかなりするのですが日本の手芸屋さんと変わらない材料が手に入ります。工作や手芸の授業をする際に悩むのが、その材料の使い方です。数年前にカラー軍手一人一組を使って(軍手で作るうさぎ)を作った時の事、想定していた事が起きました。軍手の指部分を切るように指示したものの、カラー軍手の指は切らず内側に押し込んで作業する生徒や材料を手にしたとたんに具合が悪いからと授業をせずに帰ろうとした生徒もいました。初めて目にした色鮮やかな軍手の指を切る事なんて出来なかったのでしょうか。そうした生徒に私は1セディを要求しました。1セディでは安すぎるけれど要求しました。しかし、その要求を受け入れ1セディを払おうとする生徒もいました。そこまでして軍手を手袋として使いたく切りたくはなかったのでしょうか。しかし、私は材料を寄付するのでもなく販売するのでもなく授業の材料として使ってもらいたく軍手の指を切らせました。材料のみならず、使用する道具においても様々なことが起きます。針を使った授業の時です。使った針が1本見当たらず、その針山代わりのスポンジに針がないのでその針山を使っていた生徒に探させました。赤土の床を指で掘る生徒、そして教室から出ていきました。しばらくすると走って戻って来て、黄色と青の横ストライプの制服の青い布のベルト部分に針を刺してきて「誰かが針を持って行っていたの。」と私にその針一本を返しました。そこまでして嘘を言わなくともいいのに。すべては物が十分でない貧しさからこうしたことになるのか？ハサミを使った授業の時にも似たようなことがありました。材料、道具が家になく手に入らないものだから起こる出来事があると、今度の授業でもまた何かあるのではないかと正直授業を行う際にビクビクしながらも予防策と起こった時の解決策を常に考えてしまうのです。しかし、一番の想いは(様々な材料に触れて、道具の使い方を知り、工夫して考える力が工作手芸から身につく)というものです。授業時間、学年層、生徒数これらを毎回考えながら準備をしている時から授業のイメージが湧いてきてワクワクのほうがビクビクと疑う気持ちより大きいのです。



軍手 1 枚と輪ゴムとコットンを使って切らずに縫わずに作れるマスコットを中学 3 年生が作りました。(2019/9/12)

同日、中学 1 年生のクラスでは、夏に岐阜県多治見市の公民館で開催されていた手作り絵本展で教えてもらったはらぺこ青虫を工作用紙で作りました。動く目玉は日本で購入したのですが、工作用紙は首都アクラでも購入可能な工作用紙です。



プラスチックコップを使った工作です。目玉ビーズと両面テープ以外はすべてガーナで購入した材料です。中学一年生（2019/9/19）

久しぶりに低学年で授業を行いました。折り紙をあらかじめ切って両面テープをつけておきました。糊やボンドを使うのは高学年から中学生でも難しくどんなに「つけすぎない」と指導してもビチャビチャになるまでつけるので、両面テープを使用しました。1枚の折り紙を6本に切りそれを3色分配る。ネックレスになるように最後のつなぎ合わせはまた別にキラキラしている折り紙を1/6枚配りました。折り紙で作ったネックレスとは別に手にしてる折り紙はこぶたです。この日、3びきのこぶたの絵本を読みました。発展型授業(学習)の一環として折り紙でぶたを折り、(こぶた たぬき ぎつね ねこ)の歌もうたった授業となりました。小学3年生（2019/10/10）



以前よりおこないたかった工作に取り組むことが出来ました。万華鏡です。小さな穴の中に繰り返し広げられるキラキラを子どもたちに伝えたかったのです。小学校の時の遠足で行ったお土産屋さんには必ずと言っていいほど万華鏡がありました。最近ではオイルカレイドスコープというとても美しい万華鏡があるようですが、その美しさは真似できないけれど、三枚のアルミホイルの鏡に映し出される輝きの世界を子どもたちにも自分の手で生み出してもらいたいとずっと思っていました。キラキラの素となる材料を何に入ればよいのか？適しているものは何か？長い事探していました。それはとって身近なところにあるもので代用できました。ピュアウォーターの袋でした。またここでもボンドやセロファンテープの使用で悩みました。セロファンテープも適量を指導しても長く切る、返却されないなどの悩みです。代用として輪ゴムで留められることに気づき輪ゴムを使用することにしました。この万華鏡作りでも(どうしてこう見えるのだろう?)と、輝きの素が少しでも移動しただけで見える模様が変わってくることを考えてもらいたいと思って取り組んだ工作です。



子どもたちはキラキラの世界を楽しんでいました。中学 3(2019/10/3) 中学 2(2019/10/24)

毎年11月におこなっているのがクリスマス工作です。クリスマスの1か月前ですが12月は期末テストがあるため11月におこなっています。今回作ったのは数年前にも取り組みしたことのあるマガジンツリーです。折る作業の工作は、しっかりと折ることをしないときれいな仕上がりになりません。またこうした折る作業の工作の時ならず、毎回見られる光景で他者にやってもらう生徒がいます。お願いしたクラスメイトの手元を見て自分も出来るように習得しようとする態度ではなく、慥然と待つ態度に(なぜ自分でやらない。見て覚えようとしな)といら立ちが先で怒ってしまいます。自分で作ってこそ作る喜びが生まれるのではないのでしょうか。



小学6年生(2019/11/7) 中学2年生(2019/11/11)

2019 年下半期も、子どもたちに自分の手で生み出す作品がその過程を含めて楽しいものであり、そして考える力を養える物作りを意識して取り組んできました。2020 年も子どもたちがたくさんの物作り体験ができるよう取り組みしていきます。

ガーナ挨拶 No 30 2019/12/12

國分敏子